

## 交流会の報告

松 井 守 (まつい まもる)

交流会部会長 ダイイチ㈱ 技術顧問

\*\*\*\*\*

### 1. はじめに

第48回地盤工学研究発表会（富山）の交流会に御参加いただきました皆様に、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。交流会の場所は研究発表会の中でも、全国から参加される皆様が、情報交換と交流を深めるとともに、地元富山の理解をいただく場でもあります。

本大会では、事前申請者約150名、技術展示出展者約100名、当日受付で、学生50名、一般100名、計400名を超える過去にない参加をいただき、盛大に交流会を実施することができました。特に、地元企業のかたがたには、発表会場の準備協力を合わせ、重ね重ね誠にありがとうございました。

### 2. 開場とおわら風の盆

ウェルカムドリンク、予定350人、次から次と会場が埋まりました。350人、400人、会場が満杯になりました。司会「毛利未央」美女の口元から「これから風の盆を催します」開会前の催し、おわら衆が正面入り口より入ります。笛と太鼓、歌の中、お客さんの中を練り歩きます。舞台での踊りが始まり、一人踊り、女踊り、男躍りと続きます。

風の盆、二百十日の初秋の風が吹くころ、おわら風の盆の幕開けを迎えます。毎年9月1日から3日にかけて行われるこのおわら風の盆は、今も昔も多くの人々を魅了します。涼しげな揃いの浴衣に、編笠の間から少し顔を覗かせたその姿は、実に幻想的であり優美で、山々が赤くもえる夕暮れを過ぎますと、家並みに沿って並ぶぼんぼりに淡い灯がともります。それぞれの町の伝統と個性を、いかに披露しながら唄い踊り、その町流しの後ろには、哀愁漂う音色に魅せられた人々が一人、また一人と自然につらなり、闇に橙色の灯が浮かび上がり、誰もがおわらに染まっていきます。（おわら風の盆行事運営委員会より）。

### 3. 次 第

開会とともに、実行委員長の野田様、学会長の末岡様の挨拶の後、石井知事、森市長の祝辞をいただきました。特に石井知事の祝辞中では「液状化しやすさマップ」を作って頂いたお礼と液状化を起こしやすい面積の県土に占める割合が隣接県に比べ低く富山県は安全性が高いことを述べられ、地盤工学会に高い関心を持たれたお話でした。また、立山砂防の土木遺産を世界文化遺産にする活動にご協力をお願いされました。

森市長は、「地盤工学会の皆様には社会資本の根幹を担う重要な研究を担って頂いているところですが、富山市としても橋梁や道路などの耐震化に取り組んでいきますので一層の力添えをお願いしたい」とのお話をいただきました。

ひき続き、特別講演の中西様、展望の講演をいただきました中島様、金谷様の紹介後、当会調査・部会長京谷様による乾杯の発生によって開宴となりました。

乾杯はお酒です。この暑い中、「ビールだろ」といわれてもおかしくはありません。おわら風の盆から乾杯まで約1時間、ビールは明らかに冷めてしまいます。途中でビールを入れる話も進みましたが、挨拶祝辞でビールを運ぶ音がしたとき失礼に当たります。どうする。そこに石井知事と森市長からのお酒贈呈の話が入ります。知事と市長のお酒を頂いたことを紹介、次いでに、贈呈品のお酒で乾杯したいと言えばみなさん納得してもらえます。

出店は「寿司」「ブラックラーメン」「白海老のからあげ」「氷見うどん」、ANAホテルの専売特許「飛騨牛のビーフステーキ」を準備しましたが、15分経過後「寿司」、30分経過後「飛騨牛」、45分後には「氷見うどん」「白海老」「黒ラーメン」が屋台から消えました。閉会まで45分もあります。ANAホテル担当の西島さんから15分前に終了することをアドバイスされました。会場を回りました。準備した富山の地酒はまだあります。会場のビール、ワインもまだあります。会場の会話ははずんでいます。大学の先生、私もです。お酒と話し相手がいれば、1時間でも2時間でも話が続きます。帰る人もいません。途中で時間を切るのは逆に失礼と判断しました。つまみもなく、お酒だけです。でも準備した食事とお酒は満足してもらえたと思います。

19時50分「次回開催地の北九州の紹介」、19時55分「大塚先生の締め挨拶」、20時00分「第48回地盤工学研究発表会交流会を閉会します」美しい声が場内をながれる。私の仕事は終了です。準備から今日まで1年、長い準備でした。開催の時間はわずか2時間と30分です。

### 4. おわりに

今回、過去にない400名を超える参加者のもと、無事交流会を終えることができましたこと、地盤工学会北陸支部、地元企業の皆様、ANA グラウンドプラザホテル富山のスタッフ様、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(原稿受理 2013.9.9)